

契約ノ效力ヲ失フヘキ場合ハ概ネ左ノ如シ

(一) 保險者ノ責任開始前ニ於テ保險者ニ爲スヘキ通知ノ義務違反 保險者ハ第一回保險料拂込ノ時ヨリ責任ヲ負擔スルコトヲ通常トス又契約ノ性質ニ因リ契約成立後一定ノ時期ヲ經若クハ一定ノ事實ノ生シタル時ヨリ責任ヲ負フコトアリ此等ノ場合ニ於テハ契約成立後責任開始前被保險者ノ狀態ニ關スル事項ヲ會社ニ通知セシムルノ義務ヲ負ハシムルコト通常ナリ此義務ヲ怠ルトキハ契約ハ其效力ヲ失フモノトス

(二) 保險料ヲ拂込マシテ猶豫期間ヲ經過シタルトキ 保險料ノ拂込ニ付テハ一定ノ猶豫期間内ハ契約ハ依然其效力ヲ有スルヲ以テ商慣習トナスコトハ前ニ述ヘタル所ナリ而シテ此猶豫期間ヲ經過シテ尙ホ拂込マサルトキハ契約ハ其效力ヲ失フヘキモ一定ノ期間内ニ拂込期日後ノ利子ヲ附シテ保險料ヲ拂込ムトキハ一旦效力ヲ失ヒタル契約モ再ヒ蘇生スヘキモノナルコトハ歐米ニ於ケル一般ノ慣習ニシテ我國ニ於テモ之ニ倣フモノ多シ此期間ヲ回復期間(或ハ復活期間)ト稱ス

會社カ此期間ヲ定メタルトキハ復活スルコトヲ請求スルハ保險契約者ノ權利ニシテ保險者ハ被保險者ノ身體ニ著シキ變更ナキ限りハ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

(三) 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキ(商法四一〇) 既ニ屢説明シタルカ如ク生命保險ニアリテハ保險金額受取人ノ責ニ歸スル場合モ亦茲ニ包含スルモノトス而シテ危險ノ變更又ハ増加カ著シキヤ否ヤハ事實上ノ程度問題ニシテ一般ノ標準ヲ示ス能ハス然レトモ前述シタル外部ノ危險ニ主トシテ關係スルコト明カナリ

(四) 危險増加ノ通知ヲ爲サ、ルトキ(商法四一〇第二項) 保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ危險ノ變更又ハ増加アリタル場合ニ於テハ之ヲ告知スル義務アルコトハ既ニ述ヘタル所ナレハ茲ニ再說スルノ要ナシ尤モ此點ニ付テハ保險者カ契約ヲ依然繼續スルコトハ其自由ナルヲ以テ當然效力ヲ失フモノトセサルコトヲ得

(第三) 契約ノ解除

(一) 當事者ノ一方カ破産宣告ヲ受ケタルトキ(商法四) 此場合ニハ相手方ハ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ蓋シ保險者カ破産スルトキハ將來ニ於テ保險金額支拂ノ望絶エ又保險契約者カ破産スルトキハ將來ニ於テ保險料拂込ノ望ナケレハナリ從テ或場合ニ於テ將來支拂ノ見込確實ナレハ敢テ之ヲ解除スルノ必要ナク又既ニ保險契約者カ保險料ノ全部ヲ拂込ミタル後ニ破産スレハ保險者ハ契約ヲ解除スルノ必要ナカルヘキヲ以テ法律ハ破産者ニ相當ノ擔保ヲ供セシムルカ若クハ契約ヲ解除スルカノ擇一權ヲ與ヘ又保險料支拂濟ノ保險ニ對シテハ之ヲ解除スル權ナキモノトセリ

(二) 保險者ノ責任開始前ニ於テハ保險契約者ハ契約ヲ解除スルコトヲ得(商法四)○
 (七) 危險ハ何時發生スルヤ固ヨリ豫測スルコトヲ得サルモノナレハ保險者ノ責任カ一タヒ始マリタル後ハ凡テノ瞬間ニ保險者ハ支拂ノ準備ヲ爲サ、ルヘカラス換言スレハ危險ヲ期待セサルヘカラス然レトモ責任ノ始マル前ニ於テハ恰モ未ダ保險契約ヲ締結セザルト同一ノ地位ニ在ルヲ以テ此時ニ

於テ契約ヲ解除セラル、モ保險者ハ何等ノ利害關係ヲ有セザルナリ然レトモ尙ホ將來ニ於テ得ヘキ利益ノ希望ハ契約ヲ締結セザリシ場合ニ比シ大ニ異ナルノミナラス契約ヲ締結スルニ付テハ一定ノ費用ヲ要シタルヲ以テ此損害ノ賠償ヲ保險者ニ於テ請求シ得ルヤ否ヤハ特ニ此場合ニ於ケル困難ナル問題ナリ

(三) 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラスル事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキ(商法四) 此場合ニ於テハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

保險契約ニ於テハ契約ノ解除ハ民法ノ原則ト異ナリ將來ニ向テノミ効力ヲ生スル場合多シトス此事ハ後ニ説明スル罰戻金ノ制度ノ存スル結果タリ尙ホ茲ニ將來ニ向テ効力ヲ失フ解除ト法律上當然効力ヲ失フ場合トハ一見差異ナキカ如シト雖モ其性質少シク區別アルコトヲ注意スヘシ即チ法律上失効ノ場合ニ於テハ其原因タル一定ノ事故カ發生スルト同時ニ契約ハ當然消滅スルモノナリト雖モ之ニ反シテ解除ノ場合ニ於テハ相手方ニ對スル意思表示ヲ必要ト

ス解除カ原狀回復ノ效力アル場合ト契約ノ無効ナル場合トノ差異モ亦之ニ同

(第四) 拂戻金(或ハ割戻金) (商法四三三第二項四三)

商法上拂戻ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタル場合ハ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シタル場合ニ於ケル保險金額支拂ノ免除當事者一方ノ破産シタル場合ニ於ケル解除、保險者ノ責任開始前ノ解除及ヒ危險ノ變更又ハ増加シタル場合ニ於ケル解除等ノ場合ニシテ此拂戻金ハ或ハ解約價格ト稱シ或ハ保險證券ノ買戻トモ稱ス

元來生命保險ハ貯金の性質ヲ有スルモノニシテ保險者カ保險金額支拂ノ準備トシテ積立ツル金額ハ寧ロ預金ノ性質ヲ有スルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ果シテ然リトセハ法律ニ定メタルカ如キ場合ニ於テ保險者カ保險金額ノ支拂ヲ免カレタルトキハ此積立金ヲ返還スルコト當然ナリ故ニ獨リ法律ニ定メタル場合ノミナラス保險料ノ支拂ヲ怠リタルカ爲メ契約ヲ解除シタル場合ニ於テモ拂戻ヲ爲スコト最モ適當ナリト謂ハサルヘカラス然レトモ保險者ハ契約ヲ

結フニ付キ相當ノ費用ヲ費シ尙ホ事業ヲ經營スル上ニ於テ相當ノ事業費ヲ費セルヲ以テ受取リタル保險料ノ全部ヲ返還スルコトヲ得ス故ニ拂戻ヲ爲スコトハ正當ナルモ如何ナル程度ニ於テ拂戻ヲ爲スヘキヤハ頗ル困難ナリ通常ハ三年以上保險料ヲ拂込マサレハ拂戻ヲ爲サスト雖モ拂込期間ノ短期ナルモノハ拂込年數ノ三分ノ一若クハ四分ノ一以上ノ期間拂込ヲ爲シタルトキハ拂戻ヲ爲スモノトス

拂戻ノ額ニ付テハ既ニ拂込タル保險料ノ三分ノ二二分ノ一五分ノ二若クハ三分ノ一等區々ニシテ一定セスト雖モ理論上ヨリ言ヘハ純保險料式ニ依リテ算出シタル責任準備金ノ十分ノ九位ヲ割戻スコト正當ナリト信ス

本講義第一編第一章第三節損害保險契約ノ當事者以下第二章火災保險及ヒ第三章運送保險ハ加納講師ニ代リ擔任セラレタル青山講師ノ講義ヲ掲載シタルモノナリ爲念稟告ス

編 輯 員 識

保 險 法 (完 結)

八
九

三
五
三

